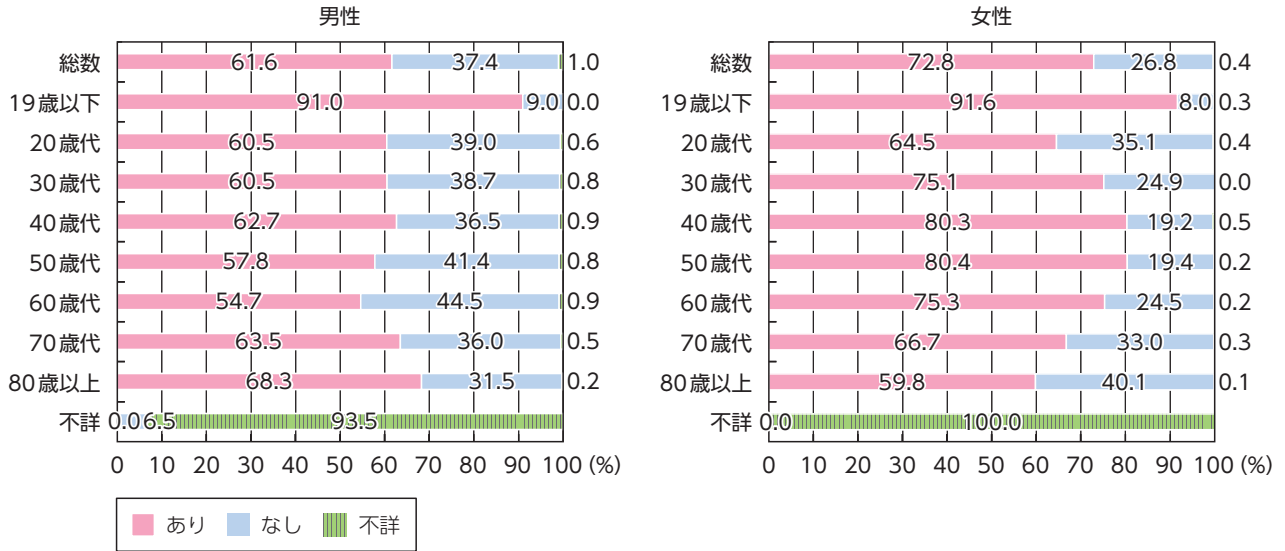


7 同居人・配偶関係別の自殺の状況

令和2年における同居人別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-30図）、男

性、女性ともに、全ての年齢階級で、同居人「あり」が多くなっている。

第1-30図 令和2年における同居人の状況別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、令和元年における配偶関係別の自殺死亡率の状況を見ると（第1-31表）、男女とも「有配偶者」は全ての年齢階級で各年代別の総数よりも低くなっている一方、50歳代の

女性を除き、「未婚」、「死別」、「離別」は各年代別の総数よりも高くなっている。特に、男性の「離別」が高くなっている。

第1-31表 令和元年における配偶関係別の自殺死亡率（配偶関係別人口10万人当たり）の状況

男						
年齢階級	総数 ¹⁾	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総数 ²⁾	25.7	22.7	23.1	26.4	31.5	27.2
有配偶者	16.8	9.4	9.9	14.8	19.1	19.3
未婚	32.9	26.3	36.3	40.6	55.6	58.0
死別	48.3	72.6	205.1	79.9	57.1	46.7
離別	101.0	95.2	137.7	112.6	104.5	85.5

女						
年齢階級	総数 ¹⁾	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総数 ²⁾	10.0	9.8	7.9	9.6	11.4	11.0
有配偶者	7.3	5.1	4.2	6.0	8.3	9.0
未婚	11.9	11.2	13.2	16.3	19.4	15.7
死別	12.5	112.3	31.2	25.6	11.0	12.4
離別	24.9	35.5	26.5	24.9	28.2	22.0

注：1) 総数には15～19歳及び年齢不詳を含む。

2) 総数には配偶関係不詳を含む。

資料：厚生労働省「人口動態統計」及び総務省「平成27年国勢調査」より厚生労働省自殺対策推進室作成